

中学校
(思春期)

特別支援教育推進を目指して



しもつけクイズ

【正解は「鬼おろし」】竹や木をいっぺん、いっぺんと荒目に野菜をおろすことが出来ます。

自尊心を高めるかわりを

思春期の子どもの内面

中学生になるころ、子どもの心身は大きな変化にみまわれます。

思春期であるこの時期は、「自分はこういう人間だ」という自己認識を確立する大切な時期です。

自分を強く意識する中で、理想と現実のギャップに苦しんだり、イライラを募らせたりします。

また、誰にも侵されたくない自分の領分をもつようになり、それを侵すような言動をする相手とトラブルになることもあります。

満ちあふれるエネルギーをぶつけ合う子もいれば、内的な葛藤が高まる子もいます。心の混乱にどう対処すべきかわからず誰もが悩みを抱えるものです。

下野市では、学校、保護者、関係機関との連携のもと、児童生徒の個々の特性に応じた支援をより充実させ、子どもたち一人一人が「のびのび輝く下野の子」に育つよう、『特別支援教育推進計画』を策定し、施策を推進しています。

下野市の特別支援教育の情報をシリーズで紹介しています。

■問い合わせ先
学校教育課 ☎(52)1118

子どもの安心は親から

子どもの考えが見えにくくなる思春期には、親としては不安が募りがちです。

しかし、そんなときこそ、親は落ち着いて対応しましょう。子どもの心の揺れに、親が巻き込まれないことが大切です。親が焦りや不安から落ち着きを失えば、子どもはその影響を受け、さらに問題が大きくなる可能性があります。

長期的な視点で変わらない日常を

学習面のみならずや対人関係のトラブルなどは、解決を急ぐと、かえってこじれがちです。時間がかかっても、子どもが落ち着いて自分の気持ちに整理をつけるのを待ちましょう。「何があっても安心できる場」とし

て家庭があることで、子ども達は気持ちの立て直しをはかることができ、次のステップへ歩み出せるのです。

思春期の発達においての習得事項

① アイデンティティ(自己同一性)の形成

苦手なところ、得意なところを含めて、自分の特性を理解し、自分らしい主体性を確立できるようにします。

② 社会的行動の獲得

① 自分の気持ちのコントロール
怒りやイライラした気持ちなど感情を自己統制し、爆発させないようにします。

・ したいことや欲しい物があつたとき、すぐに行動するのではなく、考えることができるようになります。

② 適切なコミュニケーション

・ 相手の考えや思いをよく聞くとともに、周囲の状況を考えて 話せるようにします。

・ 相手の年齢や立場を考えて、敬語や丁寧語を使用した社会的なコミュニケーションができるようになります。

③ 状況に見合った対人行動

・ 社会的に認められる行動、常識的な行動を学び、状況にふさわしい行動ができるようになります。

・ いたわり、なぐさめ、励ましなどの情緒的な関わりを通して、他者への気遣いができるようになります。

③ 社会生活への準備

① 生活スキルの習得
健康について考えて行動できるようにします。

・ 家事を少しずつ手伝えるようになります。

・ 金銭管理の力がつくようになります。

② 進路選択、職業の選択と準備

・ 幅広く情報を集めるようにします。
・ 学校見学や一日体験学習などに参加し、自分の目で見て経験し検討できるようにします。

支援のポイント

① 気がかりな行動を非難したり、放っておいたりせずに、年齢相応の行動、節度ある行動について具体的に教えます。

② 個性の違いや、得意・不得意があることなどの、自己理解を深めさせます。

③ 自己理解に基づき、将来の進路や方向性について、早めに考えるよう促します。

④ 将来の自立(職業的自立)にむけて具体的なイメージをもたせ、必要な準備を進めます。(特に、対人関係スキルやマナー、就労体験など)

⑤ 自己決定の力を育てるために、日頃から選択の機会を与え、「自分で選ぶ」という体験を積ませるようになります。

⑥ ストレスの対処方法や、気持ちが安定する趣味、人と共有できる楽しみなどを見つけてさせます。